

福島区区政会議
市民協働部会資料

令和8年度
福島区運営方針中間報告

令和8年9月15日開催

経営課題1「人と人がつながるまちづくり」に関する取組

取組の方向性 〔「福島区将来ビジョン」より〕	・豊かな地域コミュニティの実現と持続に向けた支援			
令和8年度の取組概要	豊かなつながりときずなを活かした隣近所における助け合い、支え合いのための地域活動が活発かつ安定的に行えるよう、地域活動協議会（以下「地活協」という）の活動費及び運営費の一部に補助金を交付し、おおむね小学校区を単位としたコミュニティの自律的な取組に対し支援を行う。 地域活動の担い手の負担軽減や地活協の組織運営について、中間支援組織（まちづくりセンター）を通じた支援を行う。 デジタルツールによって、若い世代の関心が高い取組や地域の魅力ある行事を効果的に情報発信するとともに、若い世代が活動する地域団体等との連携や協働を進めるため、主に地域の担い手を対象とした、デジタルスキル向上研修等を地域の実情やニーズに合わせて実施する。			
令和8年度の主な取組	取組内容	6 決算額	7 決算見込額	8 予算額
	地活協への活動費及び運営費補助	19,831 千円	19,831 千円	19,831 千円
	地域コミュニティ支援事業	16,450 千円	16,537 千円	16,450 千円
	合計	36,281 千円	36,368 千円	36,281 千円
主な取組実績 (7月末時点)	- 令和8年度地活協補助金について、全地活協へ交付完了。 - 地活協の会議運営及び事業実施や担い手の負担軽減に向けた助言、関係者間の調整などの支援を全地活協を対象に延べ20回実施。 (二次元コード付きのポスター作製・デジタルアンケート作成・ホームページ編集など) - 地域の情報発信を強化するため、まちづくりセンターがLINE公式アカウントを開設。各地域で目的（防災・市民活動相談・町会相談等の周知）や運用方法を説明、各地域の理解を得たうえで運用を開始。 LINE登録者へ各地域の情報を一斉配信できるようになり、若い世代にも届きやすい形で周知できる体制を整備。			



まちづくりセンタースタッフが地活協役員の皆さんにデジタルツールの活用について説明している様子



地活協が作成した二次元コード付きポスター

経営課題2「安全・安心なまちづくり」に関する取組

取組の方向性 「福島区将来ビジョン」より	・「自助」「共助」の防災意識を持った災害に強いまちづくり ・災害時等における要支援者への支援 ・犯罪が起こりにくい地域を作るため、地域や警察等と連携 ・放置自転車をはじめとした自転車マナー等に対する市民協働型の啓発			
令和８年度の 取組概要	災害時に自主防災組織が主体となって初期対応を行い、住民が安全に避難できる体制を確立するため、地域で継続的に防災訓練等を実施できるよう支援するとともに、各種啓発活動（防災ノートを活用した小中学校での防災授業・中学生体験学習事業・出前講座等）に加えて、マンション住民向けの防災講演会等を開催し、「在宅避難」の有効性や事前の備え、マンション固有の防災対策の普及啓発、地域とのつながりの大切さを伝え、「自助」「共助」の防災意識の向上に取り組む。また引き続き、避難に際して支援を要する方の事前の備えとして、個別避難計画の作成を支援する。 防犯カメラの設置など、地域・警察・区役所等が連携し、防犯意識の向上と街頭犯罪の減少・抑止をめざして各種事業に取り組む。 地域や警察等の関係機関と協働して、区民に対して、交通安全意識の向上をはじめ、放置自転車対策を目的としたキャンペーンの実施などにより、自転車マナー啓発や自転車等放置禁止区域の周知に取り組む。			
令和８年度の 主な取組	取組内容	6 決算額	7 決算見込額	8 予算額
	避難所開設訓練等への支援	1,159 千円	1,129 千円	1,521 千円
	小・中学生の防災意識の向上	62 千円	11 千円	184 千円
	マンション防災対策支援事業	105 千円	3 千円	601 千円
	中学生体験学習事業	2,383 千円	2,541 千円	2,874 千円
	防犯カメラの設置、防犯・交通安全対策事業	2,642 千円	2,010 千円	2,408 千円
	市民協働型放置自転車対策	6,502 千円	6,489 千円	7,473 千円
	合計	12,853 千円	12,183 千円	15,061 千円

主な取組実績
(7月末時点)

- ・津波避難ビルの追加登録等にかかる調整をした結果1施設追加。(合計区内61カ所)
- ・個別避難計画作成支援。(対象者550件作成済)
- ・防災リーダー技術訓練を10地域で実施。
- ・地域と区職員による避難所開設キットを用いた避難所開設準備訓練を災害時避難所13か所で実施。
- ・小中学校での防災授業を2小学校で実施。
- ・小中学生対象の防災ノートについては原案作成中。作成後は小中学校での防災授業で活用。
- ・区職員による防災出前講座を6件実施。
- ・マンションでの在宅避難等減災啓発にかかる講演会を、令和9年1月開催に向けて企画検討中。
- ・中学生体験学習事業では、3中学校の生徒等で7/28(火)～7/30(木)に岩手県を訪問。
- ・防犯カメラを設置するため、10地域へ照会した結果を集約。
- ・区職員による防犯出前講座を2件実施。
ゴールデンウィーク前に、長期休みの住宅侵入犯罪に注意していただくためSNSにより啓発。
- ・自転車マナーを啓発するため、広報誌で連載記事を掲載。合わせてSNS、ホームページバナー、デジタルサイネージにも掲載。
- ・放置自転車対策を目的とした啓発キャンペーンをJR野田駅・地下鉄玉川駅前にて9月下旬に開催予定。



地域防災リーダーによる
防災技術訓練の様子



コミュニティセンターでの
防犯出前講座の様子

経営課題5 「地元への愛着を育むまちづくり」に関する取組

取組の方向性 〔「福島区将来ビジョン」より〕	・福島区の魅力を発信 ・愛着をもてるまちをめざし、地域等と連携した事業を展開			
令和8年度の 取組概要	福島区には、多くの名所や旧跡、伝統文化があることから、地域への愛着や誇りを持ってもらうため、広報ふくしまや区ホームページ、福島区等のPR動画やSNSなどを用い、様々な機会において情報発信する。 地元へ貢献したいという思いを醸成するため、「区民まつり」「のだふじまつり」「ふくしまてんこもり」「ざこばの朝市」等の各種事業を開催する際には、その目的を効果的に伝える工夫を行う。 野田阪神駅前広場を訪れる人にとって居心地の良い場所とするため、清掃活動や放置自転車対策とあわせた「ノダヤオン」を開催する。 令和9年3月に閉校予定の西野田工科高等学校と協力し、文化祭等で歴史や学習内容等を区民に情報提供する。			
令和8年度の 主な取組	取組内容	6 決算額	7 決算見込額	8 予算額
	広報・情報発信の充実事業	19,340 千円	20,365 千円	25,035 千円
	区民まつり	5,449 千円	5,449 千円	5,449 千円
	「のだふじ巡り」「のだふじまつり」	1,205 千円	1,101 千円	2,461 千円
	「ふくしまてんこもり」	1,000 千円	1,039 千円	2,342 千円
	「ざこばの朝市」	— 千円	— 千円	578 千円
	「ノダヤオン」	— 千円	— 千円	171 千円
	西野田工科高等学校との共催事業	— 千円	— 千円	50 千円
	合計	26,994 千円	27,954 千円	36,086 千円

主な取組実績
(7月末時点)

- ・広報誌に区長コラムとして、名所・旧跡を取材のうえ掲載。同内容をSNS等でも発信。
- ・「福島区民まつり」は地域団体等による実行委員会にて10/3（土）開催を決定、今後実施に向けて調整。
- ・「のだふじ巡り」「のだふじまつり」を関係機関と協力し開催。
- ・ふくしまてんこもりについて、11/15（日）開催に向けて関係機関と調整中。
- ・「ざこばの朝市」を5月に開催。また、9月開催の「ざこばの朝市」において、テーマの理解度を図るため来場者に対しアンケート実施に向けて調整中。（11月、3月にも開催予定）
- ・「ノダヤオン」を4月と7月に開催。（10月、12月、3月にも開催予定）
- ・11/14（土）開催予定の西野田工科高等学校の文化祭において、区と共催で講演会実施に向けて調整中。



広報ふくしま 8月号から抜粋



のだふじまつり2026の様子